

福祉サービス第三者評価 評価結果

あかいとり保育園

横浜市保土ヶ谷区権太坂 3-1-34

運営主体: 社会福祉法人 赤い鳥保育会

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2~3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4~5 ページ
分類別評価結果	6~20 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	16~23 ページ
利用者本人調査分析	24~25 ページ
事業者コメント	26 ページ

2008年11月18日公表

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	あかいとり保育園	
報告書作成日	2008年11月4日	評価に要した期間 4ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:2008年6月21日 ~ 2008年8月6日</p>	<p>自己評価票を全職員に配布し、6月21日にほぼ全職員が評価機関から第三者評価について説明を受ける。</p> <p>職員会議で説明し、それぞれ個人で記入。</p> <p>各個人が記入したものを主任がとりまとめる。</p> <p>各クラスリーダー、主任、副主任、園長で、1項目ずつ話し合い、まとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:2008年7月22日 ~ 2008年8月4日</p>	<p>全園児の保護者(105家族)に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 2008年9月2日 第2日 2008年9月10日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前:各クラスで保育観察(室内と園庭で観察)</p> <p>昼食:2~5歳児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後:書類調査、および園長・主任に面接調査。</p> <p>夕方は、降園の様子を観察。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前:朝は、登園の様子を観察。</p> <p>各クラスで保育観察(室内と園庭で観察)</p> <p>昼食:2~5歳児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後:各クラスのリーダーと一般保育士、栄養士、非常勤保育士に個別に面接調査。その後、園長・主任に面接調査。</p> <p>最後に、園長・主任と意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 2008年9月2日 第2日 2008年9月10日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、園庭での外遊びも観察。</p> <p>5歳児の園児を中心に、観察調査時および昼食時に、会話の中で適宜聞き取りも実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

あかいとり保育園は社会福祉法人赤い鳥保育会（本部：長崎県雲仙市）により、2005年（平成17年）4月に開設されました。定員は120名で、平日・土曜日ともに7時から20時まで開所しています。保育の基本理念を「愛されている実感！それが子どもの育つ栄養 子どもが人として生きていくための基本的な力を能動的に育むために有効な援助を行うこと」とし、日々の保育を実践しています。また、0、1歳児および2～5歳児の混合保育（異年齢児保育）を特徴としています。法人では、当園を含めて7つの保育園（うち長崎県雲仙市で3園）を運営しています。

当園は、東海道（国道1号線）権太坂上の西に位置する住宅街の中にあります。付近には広大な横浜市児童遊園地、「ほどがや緑の軸」と呼ばれる散策路など、環境にも恵まれています。園舎は、鉄筋コンクリート2階建てです。木の素材を多く使い、部屋全体が暖かい家の雰囲気を感じさせる構造になっています。また、オープンな造りであることも特徴で、南側に面して部屋いっぱいに陽光がさしこみます。園庭には盛り土の山があり、大型の遊具が備えられています。

高く評価できる点

子どもたちは、のびのびと園生活を楽しんでいます

園は“保育にあたっては、まず、子どもの存在を認め、誉めてあげることから出発することが重要である”と、「誉める保育」を基本方針の最初に掲げています。

0、1歳児は、保育室でままごとやブロック遊びを楽しみます。先生に読んでもらう絵本はみんな大好きです。園庭では、スコップやカップを使って砂場遊びをしたり、足で蹴って動く自動車に乗ったり、年上の子どもに手を引かれて盛り土の山を歩いたりしています。

2～5歳児になると、グループが形成されてきます。保育室では、2、3人から5、6人が集まってテーブルを囲み、手の届くところに備えてある遊具や教材を、それぞれ自分の好みと発想で持ってきて、折り紙、ジグソーパズル、ダイヤブロック、製作等に夢中になっています。あるテーブルはおしゃべりをしながら、あるテーブルは遊びに集中して黙々と、しかし、楽しそうに過ごしています。

園庭に出ると、物置から三輪車、スケートボード、スコップ、砂場セットなど、好きな遊具を持ち出して遊びます。ボールけりやかっこ、仲良く二人乗りプランコで遊ぶ子どもたちもいます。また、音楽に合わせて保育士に習ってダンスをするなど、子どもたちはそれぞれ思い思いの遊びを楽しんでいます。

基本方針「自発的な子どもに育つ保育」「子どもの主体性が尊重される保育」が実践されています。

力を入れて取り組んでいる点

保育士は、子どもの自発性を大切にして、混合保育(異年齢児保育)に取り組んでいます

園は、0、1歳児及び2～5歳児の混合保育（異年齢児保育）を特徴としています。

2～5歳児では、おのおの50名弱の赤グループ、青グループの2つに分かれます。1つのグループには7名の保育士が関わり、シフト制により常時4～6名が当番になって、当日の保育に関わります。朝9時30分ごろから30分間の「おあつまり」は、2歳児と幼児（3～5歳児）が分かれる時間帯です。ここでは、朝のあいさつや「名前呼び（出席確認）」が行われます。保育士は一人ひとりの名前に「今日はブルドーザーのTシャツカッコイイね」というような誉め言葉を加えて呼びます。絵本読みや手遊びをはさみながら子どもの関心をうまく引き付けています。

保育室には、保育士のアイデアあふれる品がたくさん備えられています。折り紙の折り方を分解した数枚のカード、アイロンビーズ完成品の写真、製作、などです。

遊具・教材・絵本の置き場所には、完成品の写真、またはイラストが貼ってあり、子どもたちが楽しみ

ながら片付けられるようになっていきます。園庭の物置にも同様の工夫がされています。

食事の前になると保育士は絵本を取り出し、読み始めます。子どもたちは自然と保育士の周りに集まってきて、聞き入っています。室内でそれぞれ遊んでいた子どもたちも、園庭で身体を動かしていた子どもたちも自然と静かになってきます。このような集まりが赤、青グループでおのおの2つ~3つ形作られます。

基本方針「適切な保育環境での保育」の実践に向けて、保育士は努めています。

改善や工夫が望まれる点

1、指導計画の充実が望まれます

保育計画が全体的な計画であるのに対し、指導計画はより具体的な計画になります。保育計画に基づいて作成される指導計画は、年齢ごとのねらいや内容、環境構成、子どもの姿や活動の予想、保育者の援助等を見通したものです。混合保育（異年齢児保育）においては、特に年齢ごとの指導計画が重要と考えられます。

園では、2・3歳児指導計画、4・5歳児指導計画を作成し、指導計画を基に各グループ会議において議論し、保育を行っています。さらに年齢ごとの具体的な指導計画の作成が望まれます。

また0、1歳児に対してや、幼児についても特別な課題がある子どもの場合には、個人別の指導計画の作成が求められています。

園では、個別の指導計画については乳児・幼児グループ会議において話し合わせ、日々の記録も参考に、次期の保育につなげています。今後はさらに、子ども個別の状況に相応した、明文化された指導計画の作成が望まれます。

2、ケガの把握とその防止対策に、さらに取り組むことが望まれます

子どもは、その発達上の特性から事故の発生が多く、事故防止は保育の大きな目標であると認識されています。

園は、「事故発生時における予防と対応のマニュアル」を作成し、ケガの防止策とともに、発生時の対応、保護者への連絡、発生状況の記録に取り組んでいます。薬箱で処置できる小さなケガも記録して再発防止に努めており、保護者への状況説明には特に留意しているところです。

しかし、利用者家族アンケートで「ケガに関する説明やその後の対応」については、3割の保護者が満足していません。予想されるケガへの対応や、発生した場合の保護者への状況連絡などについて今一度見直し、さらに子どもの発達に合わせた安全指導についても検討して、保護者により信頼される取り組みが望まれます。

3、保護者とのより一層の意思疎通・情報交換が望まれます

当園は、開設4年目を迎え保護者との交流・連携も形成されつつあります。

保護者との間で子どもについての個別の情報交換は「あかいとり日記」(連絡帳)を活用しています。また、毎日の送り迎え時に、保護者と保育士との間で、その日の様子についての情報交換も行われています。月刊の壁新聞や毎月の「園だより」でも子どもたちの姿が紹介されています。

さらに、年度の初めには保護者懇談会を開催し、保育の基本方針や年間の行事計画などを伝えています。保護者が、個人面談を希望される場合は、いつでも応じる体制をとっています。また、2007年度後半には保護者会が設立され、保護者の意見・要望が集約した形で園に伝えられています。

しかし、利用者家族アンケートによれば「園の様子や行事に関する情報提供に対して」「送り迎えの際の子どもに関する説明に対して」かなりの保護者が満足されていないことが分かります。

保護者との密接な関係の構築、信頼関係の維持は、保育を進めていく上で欠かせません。園長・主任を中心に全職員で、保護者との交流・連携のあり方についてさらに検討することが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 保育の基本理念「-愛されている実感！それが子どもの育つ栄養-」、及び保育の基本方針「誉める保育」「関わる力の育つ保育」「自発的な子どもに育つ保育」「子どもの主体性が尊重される保育」「保育者チームによる見守る保育」「適切な保育環境での保育」は、利用者本人を尊重したものになっており、全職員理解の上、保育に取り組んでいます。
- ◇ 保育士は子どもの名前に「くん」や「ちゃん」を付けて呼び、朝の「おあつまり」のときには誉め言葉を添えて、丁寧に一人ひとりの名前を呼んでいます。
- ◇ 保育士は、子どもに対してせかしたり強制したりすることなく、落ち着いた言葉遣いで接しています。
- ◇ 個人情報保護規定があり、守秘義務については入職時や法人の研修で行われています。
- ◇ 虐待については、もし疑われるケースがあれば、児童相談所に連絡する体制を取っています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 保育時間はおおむね自由時間で構成されています。子どもは自由に園庭や保育室を行き来し、好きな遊びを通して自己を存分に表現しています。
- ◇ 食事は、自分の好きなものを好きなだけいただくカフェテラス方式になっています。子どもたちはカウンターで好きな箸を選び、当番の子どもに食べたい量を伝えてよそってもらいます。給食当番は2歳児からで、子ども同士で会話をし、言われた量を上手によそうことができます。
- ◇ 3歳児以上の午睡は、保護者の希望を聞いて、そのとき眠りたい子が午睡をしています。
- ◇ 朝の「おあつまり」の時間では、各クラス2~3グループに分かれ、保育士を中心に年齢に応じた絵本や手遊び歌を楽しんでいます。
- ◇ 理念や基本方針を日々の保育でより実践するためにも、年齢ごとの指導計画や、乳児などに対する個別指導計画の作成が望まれます。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 混合保育（異年齢児保育）のため、独自の年齢分類による保育計画を作成しています。0・1歳児クラスでは、すやすや期、はいはい期、よちよち期、とことこ期、すいすい期という5期に分けて保育計画及び指導計画を立てています。2~5歳児クラスでは、2・3歳児年間保育計画と4・5歳児年間保育計画を作成し、また2~5歳の年間指導計画を立て、それに対する個別記録を取っています。
- ◇ 苦情解決体制については、法人として要望や苦情等についての規程を整備しています。保護者会の意見箱を通して訴えられる仕組みや、第三者委員・権利擁護機関などに直接苦情の申し立てができる体制をとっています。
- ◇ 健康・衛生・危機管理マニュアルが整備され、内容も充実しています。職員間でマニュアルを共有し、一つひとつの項目を日常の保育に活かす取り組みがこれからの課題だと考えています。
- ◇ ケガに関する対処や状況報告について、満足していない保護者も見られますので、さらなる検討と対策が望まれます。

4、地域との交流・連携

- ◇ 4・5歳になると近くの高齢者施設に出向き、子どもたちの歌を高齢者に聴いていただくという交流会を行っています。また、横浜市主管の幼保小交流事業や、自治会長との情報交換を通して地域との連携を図っています。
- ◇ 日常の保育の中では、散歩や近くのプールに歩いて行く際、地域の人々にあいさつをして交流を図っています。

- ◇ 子育て支援「遊びの広場」を毎月3回、当月のテーマを決めて開催しています。育児相談もこのときに受け付け、地域の子育て支援ニーズを把握しています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 法人の経営・運営状況等の情報は、「赤い鳥保育会」のホームページで公開しています。
- ◇ 園の重要な意思決定にあたり、保護者会を設立し、保護者との意見交換を行う体制を整えました。さらに個々の保護者に対応できる体制作りはこれからの課題と考えています。
- ◇ 中長期計画は法人の理事会・評議会で定めています。次代の組織運営に備え、運営やサービスプロセスの新たな仕組みなども検討しています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 保育園の理念や基本方針に沿った人材を育成するため、職員は法人で行われる入職時の研修、2年目の同系列園見学研修、3年目のリーダー研修に参加しています。
- ◇ グループ会議においては、保育室で使用する手作りの遊具や教材が検討されます。毎月一人2案を持ち寄ることになっており、クラスごとに毎月遊具や教材を入れ替えています。
- ◇ 外部研修は、横浜市で実施する研修に希望者は参加し、職員会議で感想を報告しています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。









「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある


評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本理念「愛されている実感！それが子どもの育つ栄養」、および「誉める保育」等の保育の基本方針は利用者本人を尊重したものになっていて、全職員が理解し、実践しています。 ・ 保育計画の作成にあたっては、全職員がかかわっています。保育の基本方針に基づき、地域の実態、周囲の環境、就労状況など保護者の実状を考慮しています。 ・ なお保育計画に基づく、年齢ごとの指導計画作成の段階には、まだ至っていません。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園に際しては、園長・主任などが、保護者に面接し、子どもを観察しています。入園までの生育歴や家庭での状況は、保護者が記入する調査書で把握しています。 ・ 新入園児の受け入れにあたっては、短縮保育（ならし保育）、子どもが心理的に抛り所とするタオルの持ち込みなどに配慮しています。また、保護者との間の連絡ノートとして「あかいとり日記」を使用しています。 ・ なお、0、1歳児の新入園児に対して、個別に主担当保育士を決めることは行っていません。 ・ また、子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っていますが、より具体的な検討とその記録が望まれます。
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2005年に新設された園舎は広々とした造りになっています。全体的に木の素材を多く使い、部屋全体が暖かい家の雰囲気を感じさせています。 ・ 窓が大きく設けられ、通風・換気・採光も考慮されていて、空調装置により快適な施設環境が確保されています。清掃はチェックリストに従って行っていますが、部屋の構造上、十分行き届いていない状況が見られます。 ・ 沐浴・温水シャワー設備など体を清潔にできる設備を設けてあり、それぞれチェックリストにより管理・清掃を行っています。 ・ 低年齢児には、小集団保育が行なわれるように小さいコーナーを設けるなど、室内の使い方を工夫しています。また、0、1歳児には保

	<p>育室に隣接して午睡スペース、2～5歳児は別フロアに午睡室を設けることにより、食べる・寝るなどの機能別の空間を確保しています。</p>
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児（0,1歳児）や幼児においても特別な課題のある子どもの場合は、子ども一人ひとりの状況に応じた、個別の指導計画を作成することが求められていますが、指導計画としては、まだ十分な状態には至っていません。 ・一人ひとりの子どもの個別の状況は、決められた書式に記録しています。また、記録内容は全職員が共有する仕組みになっています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に配慮を要する子どもを受け入れています。個別のケースについては会議等で話し合い、必要な情報は記録して職員が共有しています。 ・障がい児保育のための環境整備に努めています。また、医療機関や専門機関からの助言や情報が得られる体制をとり、日々の保育に努めています。（ ） ・アレルギー疾患のある子どもに対しては、かかりつけ医の指示を受ける、保護者との連携を密にする、代替食を提供するなど、適切な対応に努めています。 ・外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対しては、文化や生活習慣の違いを他の子どもが理解できるように配慮するなど、適切に対応しています。 <p style="text-align: right;">当評価機関では、「障害」を「障がい」と表記します。</p>
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決体制については、法人として要望や苦情等に関する規程を整備して取り組んでいます。また、要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっています ・保護者からの要望・苦情を受け付ける担当者を決め、保護者へは苦情解決の手順を掲示し、また、意見箱を設けて要望・苦情を訴えやすい仕組みとしています。 ・第三者委員に直接苦情を申し立てることができるような仕組みになっています。 ・また、権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口を紹介しています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの「自由な発想」や「一人でやってみたい」を大切にした保育を行っています。 ・ 保育時間はおおむね自由時間で構成されており、子どもたちは自由に園庭や保育室を行き来し、自由な発想で遊びを満喫しています。 ・ 保育室には絵本、クレヨン、粘土、パズルやピアノなどの遊具や教材が目の高さの棚に置かれ、自由に取り出して遊んでいます。教材は毎月保育士がアイデアを出し合い入れ替えて、子どもの発達を支援しています。また、片付けがしやすいように各置場には写真が貼られています。0、1歳児クラスでは、おままごとのイチゴを、写真に合わせてケースにしまっている子どもの姿がみられました。 ・ 制作は、ぬり絵を2種類組み合わせることで新しい遊びにつながるように工夫されています。また、文字を自然に学べる制作も用意しています。 ・ 園庭には、盛り土の山が新設されたほか、三輪車や砂場、ボールや木製のアスレチックなどがあり、汗を存分にかいて自由に遊んでいます。常時異年齢で園庭を使用することもあり、保育士は園庭でのルールを子どもに十分説明し、5名程度で遊びを見守っています。 ・ 各保育室は70畳以上と広く開放的なスペースとなっており、畳のコーナーを用意し落ち着いて遊べるように配慮しています。 ・ 一斉活動としては、調査時点では、運動会の準備や制作を行いました。日常の保育において、少人数の遊びが一斉活動に発展することがあり、カルタ遊びに子どもが次々集まり、一斉活動に発展していました。 ・ ケンカは子ども同士で解決できるように、見守りをしています。ケガが懸念される場合は保育士が仲立ちし、解決できるように促しています。 ・ 園内には観葉植物や水槽が置かれ、保育室のテーブルには所どころかわいい小花を飾って、子どもたちの目を楽しませています。 ・ 園外活動には近隣のプールに歩いていくほか、公園に散歩に行っています。散歩の頻度は月1回程度で、積極的には行っていません。 ・ 混合保育（異年齢児保育）の中で、年上の子どもが年下の子どもに対して自然に配慮できるようになりつつあります。年下の子どもは年上を見習い、ハサミなどを器用に使うことができます。 ・ クラスは、0、1歳児クラスと2～5歳児の混合クラス（赤・青）の3クラスあります。年齢に応じて30～50名弱で編成されており、保育士は担当クラス全員を見ることになっています。保育士間で連携を取り、保育室や園庭での職員の配置に気を付けています。

- 1 保育内容[生活]



- ・乳児の授乳は抱っこして行い、冷凍母乳の受け入れを行っています。
- ・食事の際、0、1歳児クラスでは離乳食の子から先に食べ始め、1歳児は手でもりもり食事をしています。保育士はよく食べた子を褒め、食べる楽しさを教えています。
- ・2～5歳児クラスの食事はカフェテラス方式で行われています。子どもたちは、カウンターで食べたい量を調節してもらい、好きな席について食事を楽しんでいます。年上の子どもがリーダーシップを発揮して、「いただきます」の声掛けを席ごとに行っています。
- ・配膳は2歳から当番制となっており、当番になった子どもは、カウンターでクラスメイトに食べたい量を聞き、おかずやご飯をよそっています。2～3歳でも上手にご飯をよそうことができます。
- ・献立は法人で決められています。栄養士と保育士は月1回の給食会議を通じて情報を共有しているほか、アレルギーのある子どもには保護者も交えて代替食の対応に取り組んでいます。また、献立表は事前に保護者に配布しています。
- ・残食を記録し、献立に反映する取り組みは行われていません。
- ・各保育室には給茶機が用意され、子どもが自分の好きなときにお茶をいただくことができます。
- ・午睡の場所は食事の場所と分かれており、安心して心地よい眠りについていきます。
- ・3歳児以上の午睡は強要することなく、眠りたい子どもや保護者の要望によって行っています。
- ・排泄やトイレトレーニングは、活動の節目に保育士が声掛けを行っています。トイレチェック表で排泄の状況を保育士間で共有するとともに、0、1歳児クラスでは頻繁にシャワーでおしりを洗っています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・「保健衛生マニュアル」を作成しています。マニュアルの中に、保育中に具合が悪くなった場合や感染症の対応手順が、分りやすいフローチャートで書かれています。今後は職員間でマニュアルを共有し、日常の保育に活かす取り組みが望まれます。
- ・乳児や既往症のある子どもに対して、登園時・午後・降園時など定期的に検温を行っています。
- ・感染症について、主な感染症の病状を記した「子どもの感染症」の用紙を掲示し、「入園のしおり」を通じて登園停止基準を保護者に知らせています。発生状況については、掲示板や玄関など目立つところに張り出して保護者に伝達しています。
- ・手洗い・歯磨きの声掛けを行っていますが、習慣付けするまでには至っていません。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・衛生管理については「保健衛生マニュアル」の中に記されています。マニュアルに基づいて清掃のチェックリストを作成していますが、部屋の構造上、十分に清掃が行き届いていない状況です。
- ・マニュアルの各項目を職員間で共有する取り組みは行われておらず、今後は職員間でマニュアルを共有し、日常の業務に活かす取り組みが望まれます。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・安全管理については「危機管理マニュアル」に記されています。
- ・地震を想定し、棚は低いものを設置しています。
- ・避難訓練を月1回、子どもを交えて行っています。
- ・救急救命法を受講している保育士は数名いますが全職員には共有されていません。
- ・ケガはすべて園の責任と考え、可能な限り状況を交えて保護者に伝達し記録しています。
- ・防犯対策として玄関でIDカードによる立入制限を行い、警備会社によるセキュリティシステムや防犯カメラを導入しています。

- 3 人権の尊重



- ・保育士は、「～くん」「～ちゃん」と子どもの名前を呼び、せかしたり強制したりすることなく落ち着いた口調で子どもに接しています。区で行う人権に関する研修に、希望者が参加し、職員会議で主な内容をフィードバックしています。
- ・保育室内で、友だちや保育士の視線を気にせず過ごせる場所として、畳スペースやロッカーがあります。
- ・個人情報の取り扱いは「個人情報保護規定」に記されており、守秘義務については、入職時や法人の研修で職員に周知しています。
- ・虐待については、もし疑いがあれば児童相談所に連絡する体制を取っています。希望者は外部研修を通じて虐待の定義を学んでいます。現状、全職員に虐待の定義を周知するまでには至っていません。
- ・日々の保育で性差により先入観を植え付けないように、持ち物や服装、順番やグループ分けも性別にはこだわらないようにしています。



- 4 保護者との交流・連携






- ・保護者に理解してもらうために、入園時の説明会やクラス懇談会に入園時に「保育の理念」の冊子を保護者に渡しています。また、年1回、保護者向けに理事長の講演会を実施し、混合保育（異年齢児保育）の説明や保育理念の話をしています。
- ・個別の連絡帳「あかいとり日記」を用い、日常的に保護者と情報交換を行っています。0、1歳児クラスと2歳児は毎日記入し、3歳児以上は保護者の記入があったときや特記事項、もしくは3日に1回を目安に記入しています。また、月1回、園便りを配付するほか、保育中の写真をふんだんに用いた「壁新聞」作成し、一時保育室に掲示しています。
- ・子どもの受け入れ・受け渡しは各保育室で行われ、そのときにいる保育士が担当します。その日の出来事や連絡事項等を送迎時に伝えています。
- ・個人面談は希望者を対象に行っています。以前は定例で行っていましたが、保護者の勤務状況を考慮して希望制に変更しています。
- ・個人面談は各保護者との情報共有に有効な場となっており、実施方法に工夫が望まれます。
- ・主要な行事の日程を4月にお知らせし、保護者の参加を促進しています。
- ・保育参観は防犯カメラを活用し、別室でライブ映像を見る形で行われています。希望者全員が参加できるように数回に分け、予約制で行っています。

- ・ 2007年11月に保護者会が発足しました。園は保護者会やクラスごとの茶話会に場所を提供し、保護者会には職員が参加しています。保護者からの要望は保護者会と園で協議の上、その結果を園内に提示する仕組みができています。
- ・ 保護者からの相談は応接室や子育て支援室で行っています。クラスリーダー、主任や園長が対応し、相談の種類に応じて、「要望・意見・不満・苦情を解決するための規程」の手順で対応しています。また、クラスノートを用いて保育士間で情報の共有を図っています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園舎 2 階の部屋を使用して、毎月 3 回金曜日に、親子が参加する“子育て支援「遊びの広場」”を開催しています。月ごとにテーマを掲げています。 ・ 毎月開催の“子育て支援「遊びの広場」”における相談事業を通して、また、保土ヶ谷区役所のサービス課との連携・情報交換を通して、地域での子育て支援ニーズを把握しています。 ・ 今後、地域との交流を行うなどにより、さらに、施設への要望などの把握に努めることが望まれます。 ・ また、地域に向けての子育て支援に関する講習会や研修会の開催が期待されます。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の専門性を活かした相談機能として、育児相談を、毎月 3 回金曜日に開催の“子育て支援「遊びの広場」”において行っています。 ・ 相談内容に応じて、保土ヶ谷区役所や西部療育センターなどの関係機関との連携ができています。 ・ 現在、園からのお知らせを、地域に回覧するなどの情報提供を行う段階には至っていません。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ “子育て支援「遊びの広場」”に参加の親子の皆さんを運動会にも招待する、自治会長と情報交換の機会を持つなど、保育園に対する地域からの理解促進のために努めていますが、自治会など地域の団体・機関と定期的に交流を図っている状況には至っていません。 ・ 法人の系列園や近隣の高齢者施設、幼保小交流事業による小学校との交流、散歩の際のあいさつなど、子どもと地域との交流に努め、子どもの生活の充実と地域の理解を深めています。 ・ 現在、園として、地域の行事や活動に参加する状況には至っていません。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の利用者が関心のある事項（サービス内容の詳細、料金、職員体制等）について、必要な情報を進んで提供しています。しかし、園のパンフレット・広報誌・ホームページ等により、地域や関係機関に随時、情報を提供している状況には至っていません。 ・ 利用希望者からの問合せに対しては、常時対応できるようにしています。また、見学できることを案内しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習生や中学生の職業体験を受け入れ、育成に努めています。受け入れにあたっては、職員、保護者へ説明し、グループライダーが受け入れ担当者となって対応しています。 ・ 中学生の感想や意見を園の運営に反映させています。 ・ 実習生については、実習依頼校との協議を基に、実習目的に応じた効果的な実習が行われるよう、プログラムを作成しています。 ・ なお、ボランティア、実習生の受け入れのためのマニュアルは、まだ整備されていません。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の理念や方針に沿った人材を育成するため、法人本部と連携しながら、必要な人材の補充を行うとともに、人材育成計画を策定しています。 ・ 法人として開催する主任研修、リーダー研修など、研修計画が策定されています。園外で開催の研修会・大会にも可能な限り参加するように努めています。 ・ 研修の成果は会議等で発表して、情報の共有化を図っています。 ・ 非常勤職員とも日常のコミュニケーションを図り、円滑に業務に入れるように努めています。 ・ なお、個々の職員の資質向上に向けた目標を毎年定め、その達成度を評価する仕組みは、まだ十分整備されていません。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議等において保育の見直しを行い、それを個々の職員の保育の方法・あり方などスキルの問題として捉え、自己評価を行っています。 ・ グループ会議においては、工夫・改善した保育事例をもとに議論し、一層の保育技術の向上を図っています。 ・ 他保育園の園長や大学の先生による指導など、外部から保育の技術の評価・指導等を受ける仕組みができています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が充実感を持って保育に取り組めるように、経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化され、また、現場で自主的に判断できるように職員に権限委譲し、責任を明確化しています。 ・ 職員からの業務改善の提案は、実践に結び付けられる仕組みとなっています。 ・ なお、園長が職員との個別の面接などにより、職員の満足度・要望などを把握する状況には至っていません。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織および職員が不正・不適切な行為を行わないように、守るべき法・規範・倫理等は「就業規則」に明文化され、職員に周知しています。 ・ 法人の経営・運営状況等の情報は、「赤い鳥保育会」のホームページで公開されている。 ・ ゴミ減量化の取り組みとして分別収集を、またリサイクルの取り組みとして、牛乳パックやプラスチックカップの遊具への活用に取り組んでいます。 ・ 省エネルギー促進の取り組みとして、節電を励行しています。 ・ 園庭への植樹、草花の栽培など、緑化の推進にも取り組んでいます。 ・ なお、環境への考え方や取り組みが明文化されてはいません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の理念や基本方針等については、明文化して職員に周知されています。また、理事長研修により理解を深めています。ただし、理解の程度について園長が定期的に確認する段階には至っていません。 ・ 重要な意思決定にあたり、園長は関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明をしたりしていますが、園庭の改造に関しては、必ずしも十分でなかったところがありました。 ・ 法人として、スーパーバイズできる主任クラスを計画的に育成する研修プログラムを持っています。 ・ 主任は、個々の職員の能力や経験に合わせて、適切な助言や指導を行い、個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう、日常の職員との対話を通して配慮しています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部環境の変化等に対応すべく、園長は、保土ヶ谷区の園長会、法人の理事会・評議員会などを通して、事業運営に影響のある情報の収集・分析を行っています。 ・ 重要な情報に対しては、主要な職員間で議論し、重点改善事項として設定しています。 ・ 保育園運営に関しての中長期的な事業の方向性や計画は、法人としての理事会、評議員会で定めています。また、理事会、評議員会においては、次代の組織運営に備え、運営やサービスプロセスの新たな仕組みなども検討しています。 ・ 運営に関して、大学教授や保育園長など外部の専門家の意見を取り入れています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2008年7月22日～2008年8月4日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 47.6%（105枚配付、50枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...7人、1歳児クラス...8人、2歳児クラス...11人、3歳児クラス...10人、
4歳児クラス...7人、5歳児クラス...7人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

文中の「満足」「満足度」は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満」は、「不満」「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

基本理念や方針を知っている保護者は70%弱です。そのうち85%が「賛同できる」「ほぼ賛同できる」としています。意見欄には、園の理念や混合保育（異年齢児保育）について、より詳しい説明を求める記述が数件ありました。なかでも1クラス50名弱で行われている2歳児から5歳児までの混合保育（異年齢児保育）については、さまざまな意見が寄せられています。

【問2】入園時の状況について

「見学の受け入れ」や「面接などで、子どもの様子や生育歴を聞く対応」については80%前後の保護者が満足しています。一方、「園の目標や方針についての説明」「保育園での1日の過ごし方についての説明」「費用やきまりに関する説明」で30%以上の保護者が不満を感じています。新設園ゆえの事情も考慮されますが、「園内の見学も快く受け入れてくれた」という意見も数件ありました。

【問3】年間の計画について

70%以上が満足をしています。肯定的な意見では、「保護者会が発足し、保護者の意見も取り入れられてきた」「ちょうど良い頻度でイベントがある」があります。要望では「行事の内容の説明を十分にしてから行ってほしい」「より詳しい年間計画がほしい」という記述が見られました。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」の設問で満足度が高かったものは、「十分な外遊び」と「遊具や教材について」「遊びを通じた友だちとの関わりや保育士との関係」で、85%前後の満足度となりました。一方、満足度の低かったものは、「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動について」で、40%近くの保護者が不満を感じています。

意見欄には、散歩の回数を増やしてほしいという要望が多くみられます。遊び全体としては、「とても満足している」という意見がある一方、「保育士の目が届きにくいのではないか」という声も上がっています。また、「自主性の尊重」「2歳からの異年齢児保育」についての意見も多く、園の思いと保護者が感じていることに相違が発生しているようです。

「生活」の設問で、満足度の高かったものは、「給食の献立内容」「給食を楽しんでいるか」「昼寝や休憩の個別対応」が90%以上の満足度となりました。一方、「ケガの説明や対応」は満足度が高いとは言えず、30%の保護者が不満を感じています。肯定的な意見では、「アレルギーに丁寧に対応して下さっている」「少しずつ食べられるものが増えている」「おもらしの際必ずシャワーに連れて行ってもらえる」という意見が出ています。否定的な意見では、「活動がバラバラなので、外遊び後の手洗い・うがいの指導があまりない」「ケガの報告はあるが、詳細の説明がない」という声が上がっています。

【問5】快適さや安全対策などについて

全体的に満足度は高く、「施設設備」については90%近く、「不審者侵入対策」は80%以上の保護者が満足しています。一方、「落ち着いて過ごせる雰囲気」は30%の保護者が不満を感じています。“快適さや安全対策は、とても満足している”“設備は整っている”“病気がはやると、ドアの目立つ所に状況を知らせる紙を貼ってくれる”という肯定的な意見がありますが、要望として“部屋が広いので、もう少し休めるスペースがあるといい”ということが上がっています。否定的な意見では、“屋内が砂っぽくザラザラしている”という記述がありました。

【問6】園と保護者との連携・交流について

満足度は設問ごとにバラツキがあります。「行事の開催日や時間帯への配慮」と「残業などで迎えが遅くなる場合の対応」は90%が満足しています。記述欄には、“土日に行事をしてくれるので、家族みんなで参加できるのがうれしい”“急な残業でも快く対応して下さる”などの意見が出ています。

一方、「園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供」は40%以上、「送り迎えの際、子どもの様子に関する説明」は30%以上が不満を感じています。“担任の先生がたくさんいて、どの先生に子どもの話をしたらよいかかわからない”など、日常のコミュニケーションについての意見が多数上がっています。

【問7】職員の対応について

「子どもが大切にされているか」「保育園生活を楽しんでいるか」「話しやすい雰囲気、態度であるか」は、90%前後の保護者が満足していますが、「意見や要望への対応について」は20%以上の保護者が不満を感じています。“丁寧に接して下さい”“満足です”“先生が元気で話しやすい”といった意見が出ています。一方、職員間の力量の差についての指摘や、“グループ制で、子どもも保育士も多人数なので、子ども個々ともっと関わり信頼関係を築いてほしい”という意見も出ています。

【問8】保育園を総合的に評価すると

総合満足度は、82%です。

【問9】園への要望など

多数の意見が寄せられています。一部を取り上げると、“園全体で見守り保育してくださっている”“園の生活にメリハリがほしい”“年齢ごとの担当スタッフを決めてほしい”“全体的に説明が足りないなので、そこを充実していただけたらもっと良い園になると思います”といった意見が上がっております。

まとめ

◇ 満足度が高かった点

「給食の献立内容」「給食を楽しんでいるか」「昼寝や休憩が子どもの状況に応じて対応されているか」「行事の開催日や時間帯への配慮」「開所時間内の柔軟な対応」「子どもが園生活を楽しんでいるか」は90%以上の満足回答が寄せられました。

◇ 満足度が低かった点

「園外活動について」「園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供」の満足度がとくに低く、40%前後の保護者が不満を感じています。

◇ 意見欄・記述欄より

カフェテラス方式の給食や眠りたい子が眠る昼寝など、子どもの自主性を尊重する取り組みが満足につながっています。一方、意見全体を通して、園の思いと保護者が日常感じていることに差が出ています。

『赤い鳥の保育』について保護者はより詳しい説明を求めていることがうかがえます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

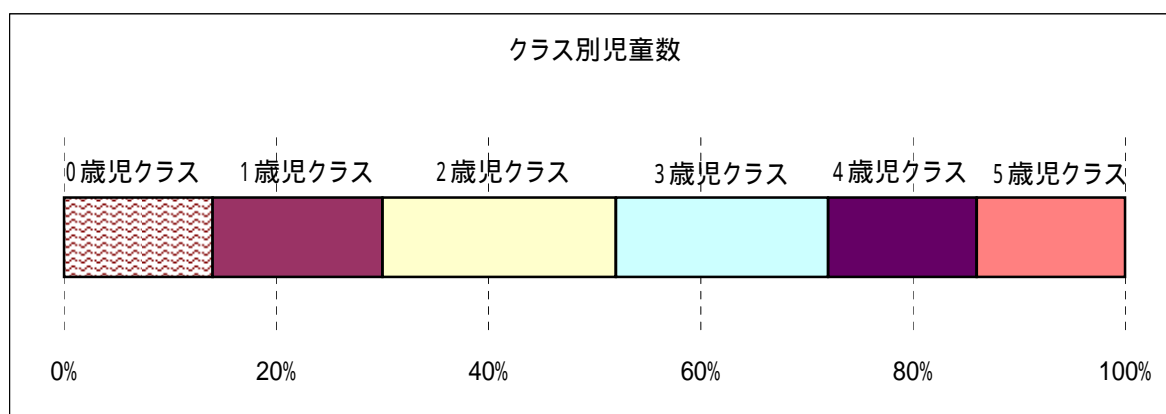
実施期間： 2008年 7月22日～8月4日

回収率： 47.6% （回収50枚 / 配布105枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
50	7	8	11	10	7	7	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



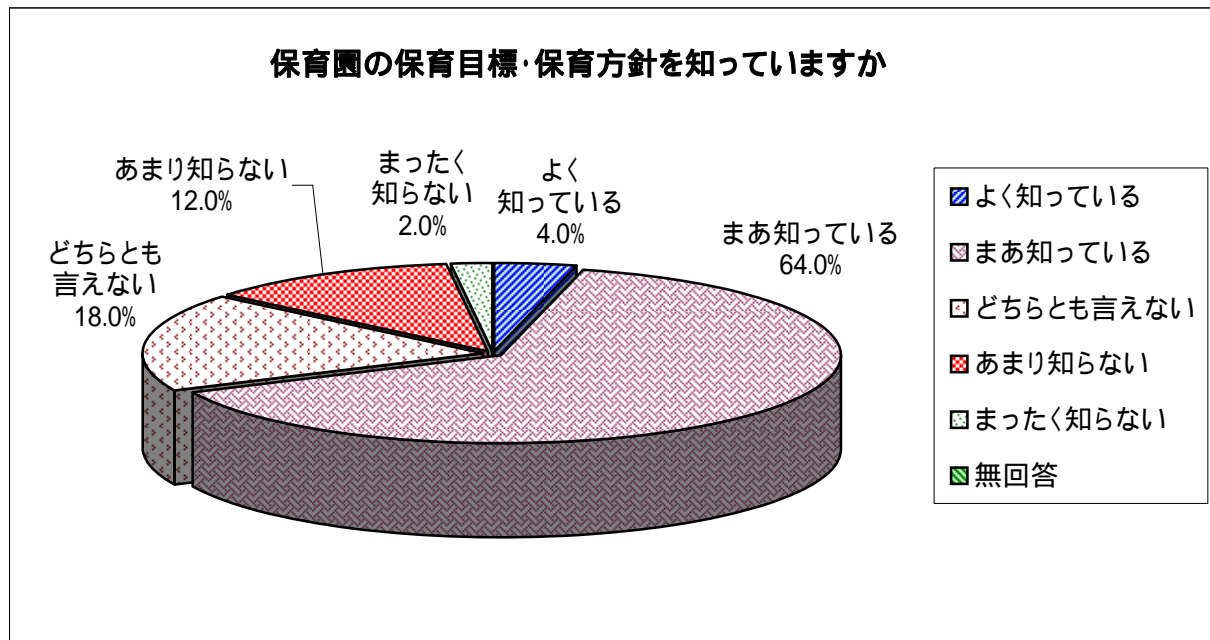
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	4.0	64.0	18.0	12.0	2.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

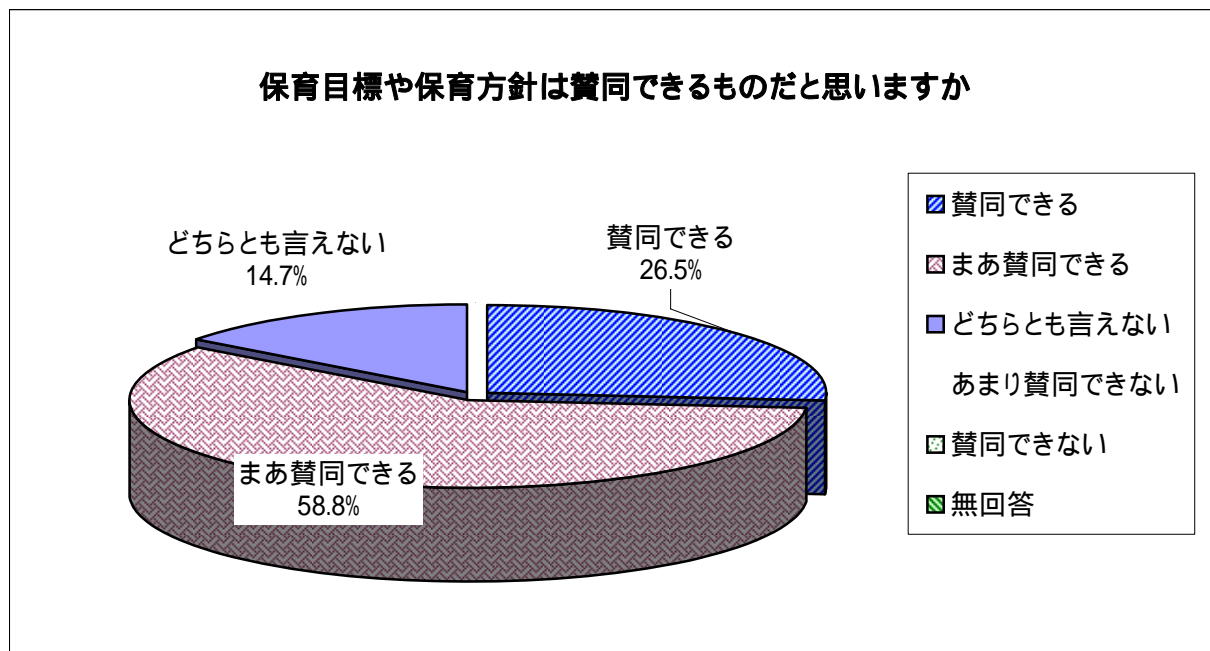


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	26.5	58.8	14.7	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

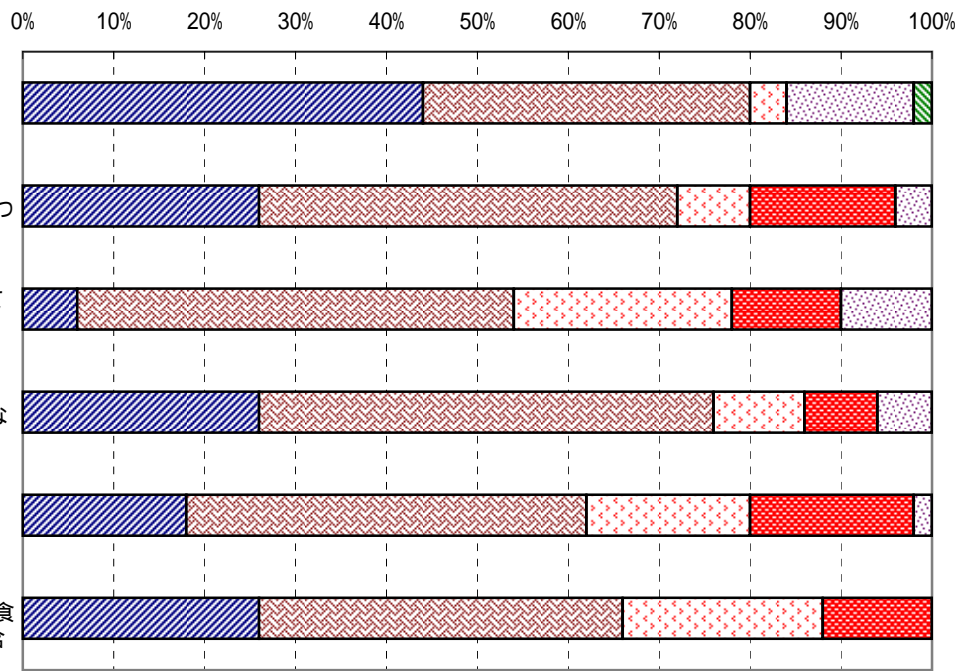
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	44.0	36.0	4.0	0.0	14.0	2.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	26.0	46.0	8.0	16.0	4.0	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	6.0	48.0	24.0	12.0	10.0	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	26.0	50.0	10.0	8.0	6.0	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	18.0	44.0	18.0	18.0	2.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったなども含めて)	26.0	40.0	22.0	12.0	0.0	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



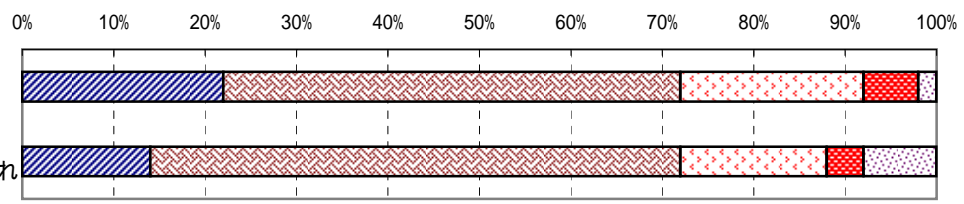
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	22.0	50.0	20.0	6.0	2.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	14.0	58.0	16.0	4.0	8.0	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問4 日常の保育内容について

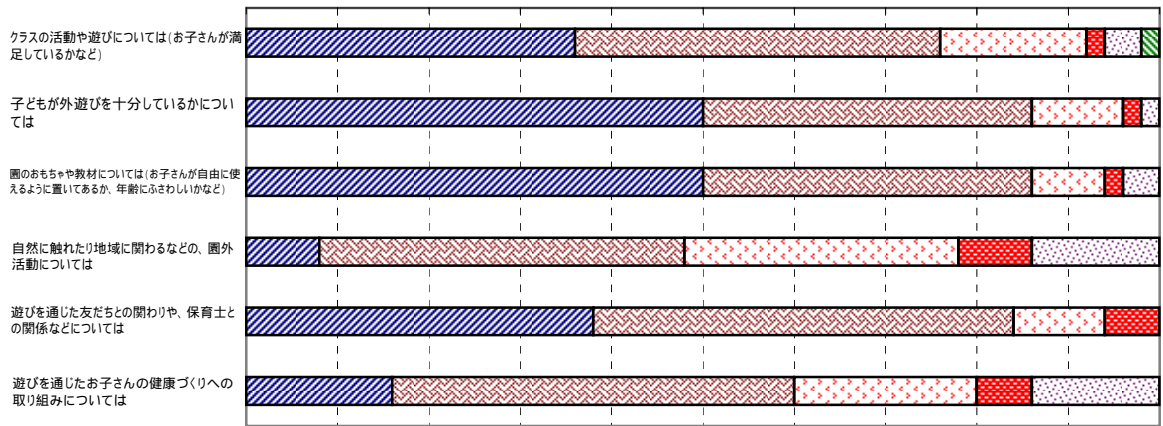
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	36.0	40.0	16.0	2.0	4.0	2.0	100
子どもが外遊びを十分しているかについては	50.0	36.0	10.0	2.0	2.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	50.0	36.0	8.0	2.0	4.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	8.0	40.0	30.0	8.0	14.0	0.0	100
遊びを通じた友達との関わりや、保育士との関係などについては	38.0	46.0	10.0	6.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	16.0	44.0	20.0	6.0	14.0	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



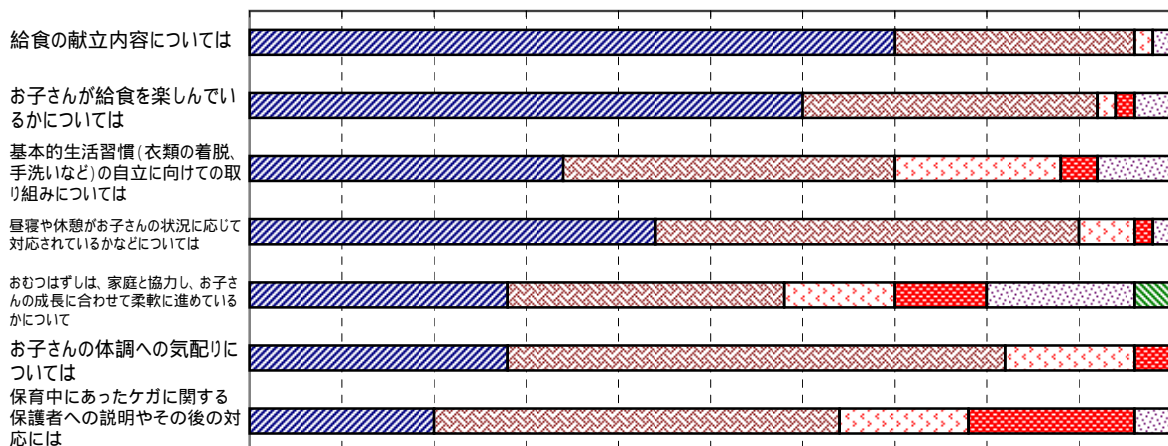
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	70.0	26.0	2.0	0.0	2.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	60.0	32.0	2.0	2.0	4.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	34.0	36.0	18.0	4.0	8.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	44.0	46.0	6.0	2.0	2.0	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	28.0	30.0	12.0	10.0	16.0	4.0	100
お子さんの体調への気配りについては	28.0	54.0	14.0	4.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	20.0	44.0	14.0	18.0	4.0	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



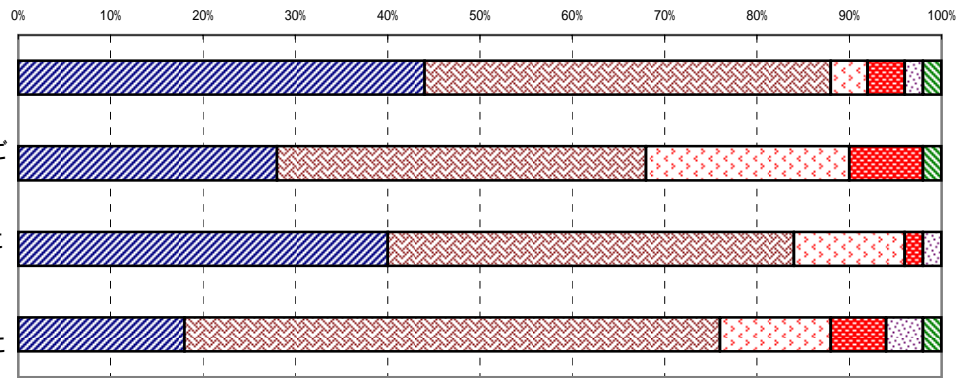
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	44.0	44.0	4.0	4.0	2.0	2.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	28.0	40.0	22.0	8.0	0.0	2.0	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	40.0	44.0	12.0	2.0	2.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	18.0	58.0	12.0	6.0	4.0	2.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



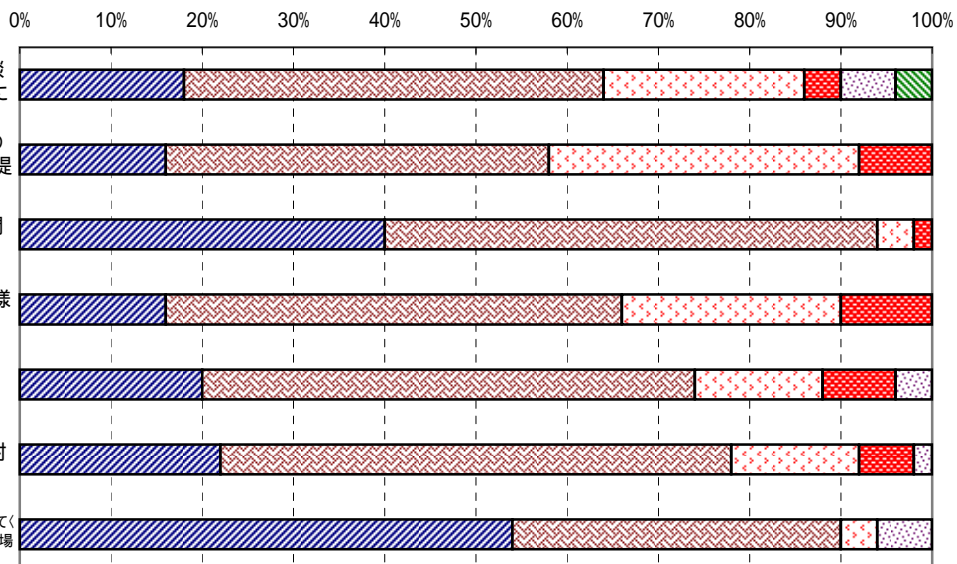
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	18.0	46.0	22.0	4.0	6.0	4.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	16.0	42.0	34.0	8.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	40.0	54.0	4.0	2.0	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	16.0	50.0	24.0	10.0	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	20.0	54.0	14.0	8.0	4.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	22.0	56.0	14.0	6.0	2.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	54.0	36.0	4.0	0.0	6.0	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

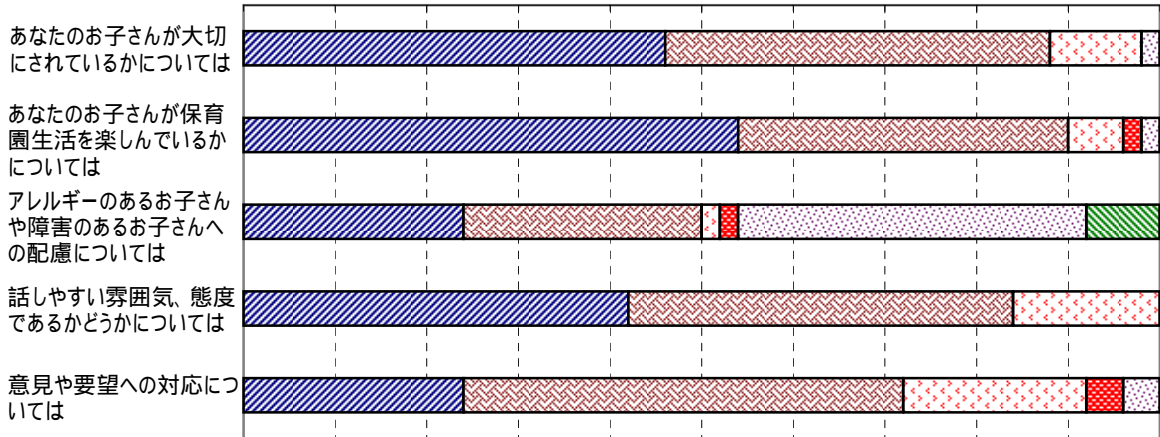
(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	46.0	42.0	10.0	0.0	2.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	54.0	36.0	6.0	2.0	2.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	24.0	26.0	2.0	2.0	38.0	8.0	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	42.0	42.0	16.0	0.0	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	24.0	48.0	20.0	4.0	4.0	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

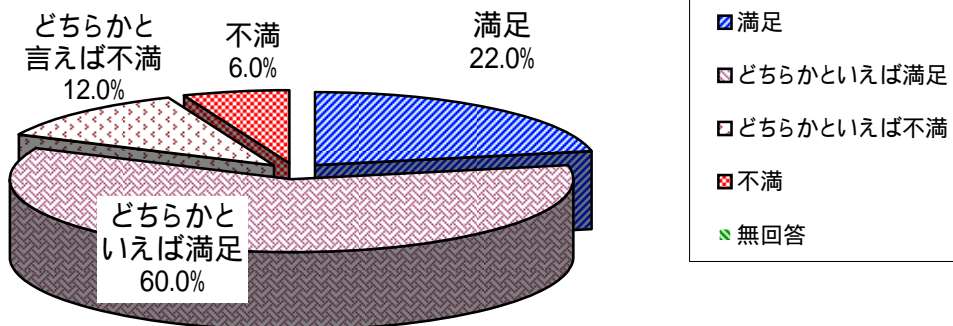


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	22.0	60.0	12.0	6.0	0.0	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 9月2日（火）9：00～14：00 9月10日（水）7：30～12：00

観察中、5歳以上の園児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

乳児クラス（0・1歳児クラス）

朝9時30分から「おあつまり」の時間になっています。子どもたちはそれまで自由時間となっていて、園庭や保育室で自由に遊んでいます。「おあつまり」の時間では、絵本や手遊び歌を2グループに分かれて楽しんでいます。そして、保育士が子ども一人ひとりの名前を呼び、「ハーイ！」と元気に手を上げて返事をする、「上手」と褒めています。その後はおやつ時間です。この日のおやつはふかし芋と牛乳で、ほとんどの子どもが手やスプーンを使い自分で食べています。

おやつ後は自由時間です。おままごとやブロックを取り出す子ども、園庭に向かう子ども、とそれぞれ興味のある方に向かいます。園庭では、大きい年齢の子どもが小さい子どもの手を取って、あちらこちら歩いています。調査1日目は、保育室で紙粘土のお月見団子を制作し、2日目にはレンコンなどに絵の具を付け野菜スタンプを作り、画用紙にペタンとして楽しんでいます。保育士に手を添えてもらい、はさみやのりを上手に使って運動会の準備をする姿もみられました。制作活動は1週間のプログラムに組み込み、毎日数名ずつ行っています。おもちゃをめぐって小競り合いが起きましたが、「痛かったよね」「～ちゃん痛いんだよ」と保育士はお互いの気持ちを代弁し、理由を説明しています。

おむつ交換は食事の前後など節目に行い、「チッチにいく？」「トイレにすわってきてごらん」と声掛けをすることもあります。服が汚れた場合は着替えをし、園庭から戻ったときは保育士が手洗いの声掛けをしています。

食事は、手やスプーンを使ってもりもりと食べています。よく食べると「上手！」と褒めてもらえます。食べている途中で眠くなりコックリしている子は、保育士が様子を見て午睡の場所に連れていっています。午睡の場所には保育士とお当番の5歳児がつき、子どもたちの背中をさすったりして、心地よい眠りにつけるよう促しています。

赤グループ（2・3・4・5歳児の混合クラス）

朝の「おあつまり」の時間になると、自然に子どもたちは3つのグループ（2歳・3～4歳・5歳）に分かれて着席します。2歳児は一つの丸テーブルを囲み、保育士が読む「3匹の子豚」の絵本を楽しみ、その後自分のおやつを取りに行きます。3～4歳児は、オルガンで元気に歌い、その後一人ひとり褒め言葉をそえて名前を呼ばれていきます。呼ばれた子は「はい」と元気よく答えます。その後「たんたんたんてい」「虫の本」の絵本を読んでもらいました。5歳児の席では「今日は何日」「外で遊ぶときのお約束を教えてください」という質問を次々に出していき、子どもたちがいろいろ答えて、その後絵本を楽しんでいます。

10時過ぎから自由時間となります。帽子を片手に園庭に飛び出していく子どもも、保育室でアイロンビーズや粘土、ブロックなど好きな遊具や教材を取り出す子どもも、各自熱中しています。保育士は、完成したアイロンビーズなどをデジタルカメラで撮影したり、遊びが園庭や保育室のどちらかに偏らないように、子どもたちへ適宜声掛けを行ったりしています。

ケンカの多くが子ども同士で自然に解決しています。保育士の関わる場合は、お互いの言い分を聞く形で解決を促しています。

食事の時間が近くなると、保育士の声掛けで片付けが始まります。保育士が絵本を読み始めると子どもが自然に集まり、その周りに着席します。お当番と保育士がごはんをよそいはじめ、子どもたちはカウンター前に1列に並びます。2～3歳ぐらいの子どもが上手にしゃもじを使い、大きい子どもから言われた量をよ

そっています。苦手なものは少なめに、好きなものは多めによそってもらっているためか、残す子どもは少ないようです。

午後1時頃になると、午睡を希望する3歳以上の子どもが、2階のお昼寝ロフトに上がっていきます。午睡する子どもは20名程いました。

青グループ(2・3・4・5歳児の混合クラス)

朝の「おあつまり」の時間になると、園庭で遊んでいる子どもたちが次々と保育室に戻ってきます。集まったところで、今日のお当番さんを発表し、2歳と3~5歳の2グループに分かれます。2歳児は「お手々きれいかな?」と保育士が手洗いに誘導しています。待っている子どもたちは手遊び歌や「おばけのてんぷら」の絵本を楽しみ、全員そろって、一人ひとりの名前に「今日はブルドーザーのTシャツカッコイイね」というような褒め言葉を加えて呼んでいきます。そして、呼ばれた順番におやつを各自取りに行き、子ども同士会話を楽しみながら楽しくいただいています。3~5歳は「ねこ」「くま」「ぶた」「ぞう」という異年齢のグループに分かれて着席します。同じように点呼が行われ、「はい」と返事をする他の子どもたちがみんな拍手をします。その後保育士が読む「ぼたんのくに」という絵本に聞き入っていました。

10時過ぎると、自由遊びが始まります。その前に2歳児を中心に排泄の声掛けが行われています。保育室ではおままごと、制作、カルタなど好きな遊びを少人数のグループで遊んでいます。多くが同じぐらいの年齢同士で遊んでいますが、保育士が遊びに加わると異年齢の子どもが集まり、集団の遊びに発展していました。園庭では、音楽に合わせて保育士がダンスを始めました。2歳児から5歳児が集まってきます。10名ぐらいの集まりとなり、保育士を囲んでダンスを楽しんでいました。

食事前には、保育士が二手に分かれて、手遊び歌や絵本読みを始めます。園庭で元気に遊んでいた子どもも、室内で遊具や教材を楽しんでいた子どもも、徐々に保育士の周りに集まってきます。子どもたちは、食事を前にして自然と気持ちが落ち着いていくようです。食事の準備ができると、カウンターで好きな箸を選び、当番に量を調節してもらって、食事トレーを席まで運びます。2歳の子どもも、こぼさないようになんとか自分で席まで運び、席単位で「いただきます」をしています。

まとめ

子どもたちは広い部屋や園庭を自由に行き来し、好きな遊びを楽しみ、のびのびと生活しています。自由な園生活のなかにも、自分の食事を運ぶ、友だちの食事をよそ、下の年齢の子どものクラスを手伝うなど、「自分のことや友だちのことをやってみよう」「子ども同士コミュニケーションをとろう」という姿も見られ、「自発性が育つ・関わる力の育つ保育環境の実践」という園の基本方針に向かって、子どもたちが成長している姿が見られました。

事業者コメント

あかいとり保育園は平成 17 年 4 月に開園して 4 年目になりました。これまで赤い鳥保育会の保育理念に添って「誉める保育」を実践し、子供たちを見守って参りました。今回第三者評価を受けるにあたっては、あかいとり保育園の現状そのまま見ていただくという気持ちで望みました。今回の評価は、保育について様々な角度から職員と話し合うきっかけになりました。更に今後の保育への取り組みの基点にしたいと考えています。文章化が十分でない部分の評価では、実践の取り組みがいささか軽く扱われたりと、少々疑問を感じるところもありますが、様々な視点からのご指摘をいただき、見過ごしていたことにも改めての気づきがあり、今後の保育に役立てていきたいと存じます。

保護者の方々とのコミュニケーションについても更に積極的に取り組んでいきたいと考えています。また地域交流を意欲的にすすめ、地域の方々からより良く評価される保育園になっていければと願っています。

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.rakuraku.or.jp/hyouka/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
